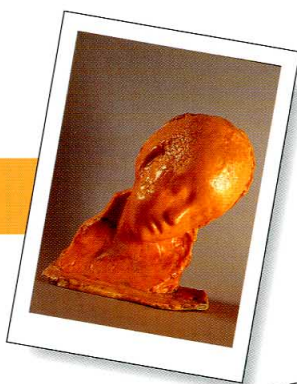


アートカードBOX Q&A

～はじめてアートゲームをする先生のために～

Q1 アートカードとは何ですか？

- A** カードで楽しく遊びながら、子ども自らが鑑賞の視点をつくりだす学習ゲームです。見かけはトランプゲームに似ています。カードには絵や彫刻が印刷されています。基本的なルールは「円に座る」「カードを配る」「ゲームをする」だけです。ゲームをしながら鑑賞したり、鑑賞の方法を学んだりします。



Q2 アートカードはどのようなカードですか？

- A** このカードに印刷された作品は全て宮崎県立美術館に所蔵されています。郷土の画家瑛九の作品を印刷した「瑛九カード」80枚、「美術館名品カード」80枚とゲームに使う「ことばカード」が入っています。

Q3 アートカードがどうして鑑賞になるのですか？

- A** ゲームをしている子どもたちの様子を見てみると、以下のことが分かります。
- ① 子どもたちが一生懸命カードの作品を見ます。(見る)
 - ② 作品の色や形、表し方など細かく見ていきます。(考える)
 - ③ 自分の気づきを発言します。(まとめる)
- この3つは、いずれも鑑賞で大事なポイントです。実践してみると分かるのですが、いつのまにか作品を読みとり、言葉で表現する力、思考力を高めていることにも気づかされます。



Q4 複製図版でも鑑賞になるのですか？

- A** もちろん実物の鑑賞を行わないと、真に美術作品の鑑賞を行ったことにはなりません。しかし作品鑑賞の視点を身につけるためには、練習が必要です。アートカードはあくまで、作品鑑賞のための訓練だと割り切ってください。アートカードの実践を通して鑑賞の視点を身につけ、実作品を見てみたいという動機付けが出来上がった児童・生徒が(ここまでが第1段階)、美術館・博物館などで本物の作品に触れることによって(これが第2段階)、本当の意味での美術鑑賞教育は完成するのです。美術館に行く前にアートカードゲームをしたことで、美術館での鑑賞活動が全く違ったものになったという事例も多くあります。

Q5 アートカードはどんな学年でもできるのですか？

- A** ゲームによっては、低学年向き、高学年向きなどありますが、基本的に対象学年はありません。ルールを参加者の実態に応じて変えることで幼児から大人まで楽しめます。共通ルールを先生が提示し、後は参加者にまかせてもかまいません。参加者はルールを自分たちで作りながら楽しめます。新しいルールを工夫してみてください。美術館では新ルールの募集もしています。楽しいルールを考えてぜひ応募してください。



Q6 勝ち負けをつけることは教育的に問題はありませんか？

- A** 子どもたちの様子を見てみると、勝ち負けを気にしないことが多いようです。絵を見ることの楽しさが勝ち負け以上の意識をつくってくれるようです。また、拍手をしたり、認め合いの活動を取り入れることで、教育効果が高まります。アートカードには勝ち負けをつけないゲームもあります。慣れてきたら、ルールはぜひ子どもたちにまかせてください。子どもたちは、みんなが楽しめるようにルールを工夫していきます。

Q7 美術の知識に乏しい教師ではできないのではないですか？

- A** そんなことはありません。だれでもできて、楽しめるのがアートゲームです。まず先生がやってみることが一番です。これまでに、宮崎県立美術館の研修会に参加した後、アートカードを使って公開授業をした先生もいます。

Q8 はじめてやる時、どのようなことに気をつけたらよいですか？

- A** グループ分けした後、以下のように進行は先生が一斉にやるといいでしょう。

[授業の展開例と留意点]

(1) 最初のゲームは「マッチングゲーム」が適当です。作品の中から共通点を探すゲームですので、子どもは絵の色や形、表し方、描いてあるものなどの要素に着目します。

- ① ゲームをさせながら、先生は子どもたちの発言をメモします。
- ② メモした発言を黒板にまとめます。
- ③ 20分ほど行ったらゲームを中断し、黒板で子どもたちの気づきを紹介します。
- ④ 気づきのすべてが鑑賞の視点になっていることを押さえ、賞賛します。

(2) 次のゲームは「キーワードゲーム」が適当です。「ことばカード」を使ってゲームをすると、子どもたちは、絵の感じ方を見つけたり、絵から想像をふくらませたりします。

- ① ゲームをさせながら、子どもたちの発言に耳を傾けます。
- ② 20分ほど行ったらゲームを中断し、子どもたちの気づきを紹介します。
- ③ 絵の感じを考えたり、想像をふくらませていることを押さえ、賞賛します。

一つのゲームは20分ぐらい必要ですから、この2つで1単位時間必要です。たった、これだけでも子どもたちの気づきのするどさや新鮮さに驚かされます。